

電気フライヤーから出火した火災事例

火災概要

一般住宅の台所において、つまみを「切」にしたにも関わらず電気フライヤーから出火した火災です。

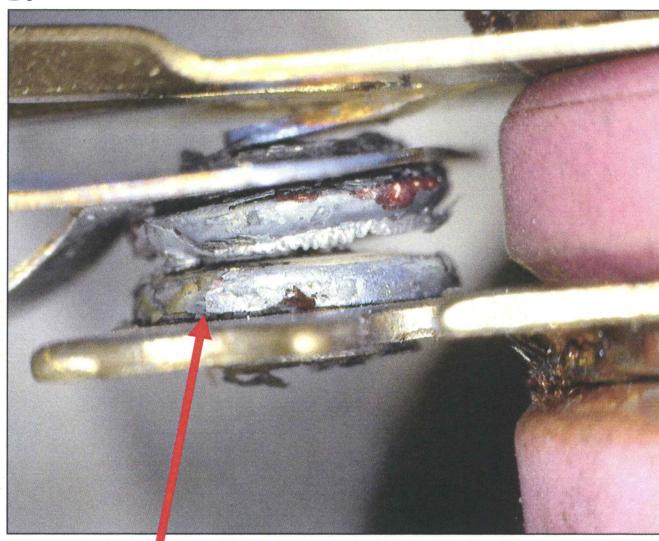
発見当時は、コンセントにプラグが挿さったままで、つまみは「切」の状態で電気フライヤーの槽内から炎が上がっていました。

原因概要

現場の状況と後日検証した結果、電気フライヤーの槽内の温度を調整する装置であるサーモスタットが経年劣化により溶着し、プラグが挿さっている状態でつまみを「切」にしても通電状態であったことから、槽内の油の温度が上昇し続け、油が発火点に達し出火したことが判明しました。



使用後はコンセントからプラグを抜きましょう。



サーモスタットが溶着し、離れないためプラグを挿せばつまみが「切」でも通電する。

類似火災の防止対策

家電製品は耐用年数を超えても使用できます。しかし、経年劣化により内部のサーモスタットが溶着する等の故障が生じている可能性があります。

つまみを「切」にしても電源ランプが消えない、温度が下がらない等の異常がある場合は使用を中止して製造会社等に相談してください。

(類似火災の防止)

- ・つまみが抵抗なく回る等の異変があれば使用を中止する。
- ・取扱説明書をよく読み、使用後はスイッチを「切」にしてコンセントからプラグを抜く。

※天ぷら等を揚げる際はその場を離れないで下さい。電気フライヤーにあってはプラグを抜くようにして下さい。

火災が発生した場合は、直ぐに消防(119)へ通報してください!!